



インフォメーション・ノート

SALONE DEL MOBILE.MILANO: イベント

Salone del Mobile.Milano 2016

第21回トリエンナーレ国際展覧会の主役に！

パラッツォ・デッラルテ, ミラノ (トリエンナーレ・デザイン美術館)にて

開催期間：2016年4月2日～9月12日

ROOMS. インテリアの新提案

数あるデザインの中でインテリアは、日々の生活の中でより密接な関係にあります。何故なら私たちは皆、家という、生活の大切な一部である空間の中で暮らしているからです。寛ぎ、リフレッシュ、読書や思考、勉強、食事、睡眠はもちろん、家族と過ごし、友だちも招く場。そのインテリアに課せられた課題は大きく、選んだ空間と環境の形や色、ディテールが、人を招き入れ、お互いの体温や、気分や感情など、人と人が触れ合う大切な生活のスタイルを司ります。

この暮らしの大切な時間の中で、人々のデザイン分野への興味は増加しつつあります。特に関心が高いのは建築とインテリア・デザイン。そのインテリア・デザインは、デザイナーが初めに手掛ける仕事、若い世代の分野という認識がイタリアに限らず一般的で、大きな建築プロジェクトなどと比べると、意外に探究されたことのない分野です。

インテリア・デザインがより専門的な要素を求め、経済を発展させる大切な役割を担うようになってきても、建築分野と比べると批評の対象には及ばず、50年代後半に開催された質の高い展覧会ですら対象外でした。1957年コモ ヴィラ・オルモ Colours and Shapes in Today's Home 展、1965年 フィレンツェ ストロツィ宮殿 La Casa Abitata 展、1986年 ミラノ トリエンナーレ The Domestic Project 展、また1972年 ニューヨーク MoMA の Italy, The New Domestic Landscape 展が挙げられます。

展覧会

キュレーター：ベッペ・フィネッシ

展示デザイン：ジャンニ・フィリンドゥ

グラフィック：レオナルド・ソンノーリ

偉大なる建築家、熟年のマエストロによるインテリア・デザインのニーズが高まりつつある、こんにちの社会。洗練された実験的なオリジナル・デザイン、選び抜かれたエキスパートによる芸術性に焦点を当てた展覧会です。



展覧会は、まず簡単な歴史の説明から始まり、プロとしてデザインの分野で初めに携わったのがインテリア・デザインという歴代の巨匠たちの作品が紹介されます。ジオ・ポンティ、フランコ・アルビーニ、カルロ・モリーノ、カルロ・スカルパ、カルロ・デ・カルリ、ヴィットリアーノ・ヴィガノ、エットレ・ソットサス、ジョー・コロombo、レオナルド・サヴィオリ、トニー・コルデーロ、など。

更には多少なりともインテリア・デザインを手掛けた 20 世紀のイタリア史上に名を残すマエストロたち、BBPR、アンジェロ・マンジャロッチェ、ヴィーコ・マジストレッティ、イニャツィオ・ガルデッラ、マルコ・ザヌーゾ、ルイジ・カッチャ・ドミニオーニ、ヴィットリオ・グレゴッチェ、ガイ・アウレンティ、ナンダ・ヴィーゴ、などの作品も紹介。

また、インテリア・デザインを通して、各々の考えや手腕、ビジョンを表現した近年の建築家の作品も展示。例えば、ミケーレ・ボニーノ/コークス、アントネッロ・ボスキ、カルヴィ・メルリーニ・モヤ、グイード・カナーリ、ガブリエラ&マッシモ・カルマッシ、ジャンフランコ・カヴァリア、カルラ・チェッカリア、マッシモ・クルツィ、ケルビーノ・ガンバルデッラ、ルチャーノ・ジョルジ、マリア・ジュゼッピーナ・グラッソ・カニッツォ、ジョアンナ・グラウンダー、デチオ・グアルディリ、グイード・モルプルゴ&アンナリーザ・デ・クルティス、フランチェスコ・パスクアリ、ダニエレ・ロッシ、イタロ・ロタ、アレッサンドロ・スキヤンドウツラ、UdA、ステファノ・テスタ/クリオストラート、ブルーノ・ヴァエリーニ、フランチェスコ・ヴェネツィアなど。

初めの大きなエリア「セレスティアル・ヴォルト」には、これらの建築家、デザイナーの作品の中から抜粋された作品 - 写真、モデル、絵画を通して、20 世紀のイタリアン・インテリア・デザインの歴史を物語ります。

そして来場者は、異なる建築家によってデザインされた部屋を一つずつ進みます。ウンベルト・リーヴァ、アレッサンドロ・メンディーニ、ラッツァリーニ&ピッカリング、マノロ・デ・ジョルジ、マルタ・ラウダーニ&マルコ・ロマネッリ、アンドレア・アナスタジオ、ファビオ・ノヴェンブレ、ドゥイリオ・フォルテ、エリザベッタ・テッラーニ、カルロ・ラッチェ、フランチェスコ・リブリッツィ。この 11 組が其々のリビング・コンセプトとフィロソフィーを展開します。

そして、哲学者のフランチェスコ・M.カタルッチョが其々のプロジェクトに文学、もしくは哲学の分野から選んだ小説を、テーマとして与えています。

Salone del Mobile.Milano は、イタリア家具工業連盟のイタリアン・ホーム・ファースニング部門として、外務省、トリエンナーレ・ミラノ、イタリア工業連盟の協力のもと、このプロジェクトへの参加をいち早く表明しました。

イベント紹介ページ：

<http://www.salonemilano.it/en/manifestazioni/eventi-appuntamenti/lista-eventi-del-salone/2016/stanze-nuovi-paesaggi-domestici.html>



第 21 回トリエンナーレ国際博覧会

パラッツォ・デッラルテ・ミラノ

「21 世紀 デザイン・アフター・デザイン」

2016 年、ミラノ・トリエンナーレ国際博覧会が開催します。実に 20 年振りの開催。1923 年にモンツァで始まり、社会のニーズにより敏感に対応するため 1933 年にミラノへ移転しました。

ミラノの文化的イベントの拠点、「パラッツォ・デッラルテ」（芸術の館）は、トリエンナーレ・デザイン・ミュージアム、企画展、ブックショップ、劇場を備え、年齢に関係なくミラノ市民の憩いの場となっています。第 21 回ミラノ・トリエンナーレは **BIE** -博覧会国際事務局 から、国際博覧会として認定されています。

「21 世紀 デザイン・アフター・デザイン」

20 世紀から 21 世紀にかけての過去数十年間、デザインはグローバル市場に於いてめまぐるしい普及の広がりを見せてきました。デザイナーの役割とステータスは、サービスを提供することの重要性が問われるようになったことで、大企業から中小企業、一般に至まで、広く認識されるようになりました。特に、デザインドリブン企業や、デザインを戦略上必須と位置づけた企業でより重要視されるようになりました。

新しい通信技術の発達に伴い、そのコストの著しい低下や、人の移動の拡大、そしてウェブという代替市場の存在のお陰で、デザイナーは、生産上の制約から解放され、より意欲的、革新的にデザインに取り組めるようになりました。その結果、デザインの探究において、能力、異なる文化、芸術、科学、哲学、技術とデザイン、といった幅広い分野の観点からのリサーチが求められるようになりました。

これをテーマにトリエンナーレは、現代の崩壊された社会の矛盾と不整合に挑戦を挑みます。未来の文化の土台を作り、新しい基点を定めることを目的とし、その実現に向けて、このプロジェクトとデザイナーに、真の革新と新しい真実を探り出すことを委ねます。

デザイナーの印象はどう変わるか？

典型的な量産の論理と新しいポスト・フォーディズムとの対立に起因する複雑なエコシステムを、どう主張できるか？

コミュニティー、地域やローカルカルチャーなど社会のイノベーションに深く関わるデザイナーのプロファイルをどう説明するか。

どの街が、どのコミュニティーが、何を後継者へ伝承したいか。

What design after design?

Why design after design?

Where design after design?

When design after design?